

異種移植片においてヒトとマウスを  
判別できる IHC 用抗体

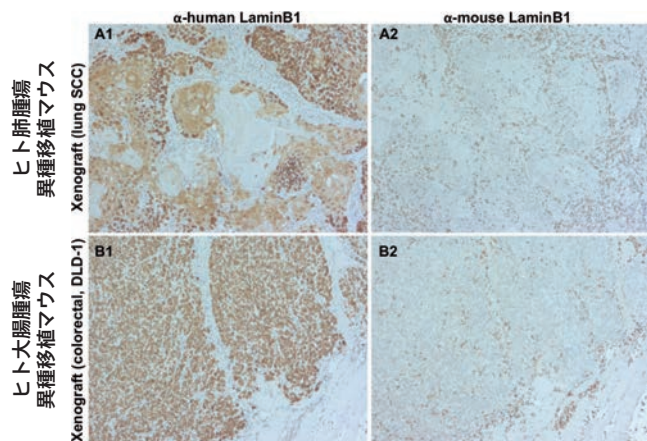
**HistoSure  
Xenograft Pathology 抗体**

ホルマリン固定パラフィン包埋されたヒト/マウスメラ組織（例えば、ヒト腫瘍の異種移植片および臨床疾患のヒト化マウスモデル）において、ヒトとマウスのタンパク質を判別するために開発された抗体です。

ここがすごい

ヒトに関するがん免疫療法の研究を行う場合には、マウスだけでは限界があります。患者から採取した腫瘍サンプルを免疫不全マウスに移植する PDX モデルは、患者の元の腫瘍によく似ているため、医薬品開発研究での予測値が高くなります。広く使用されている抗体は、多くの生物種に対して交差するように開発されていることが多く、ヒト化マウスモデルのヒト成分とマウス成分を区別しないため、ヒト化マウスモデルの組織学的分析が妨げられています。HistoSure ブランドの Xenograft Pathology 抗体は、この課題を克服するために特別に設計されています。

使用例



茶色：抗ヒト Lamin B1 抗体 (#HS-404013) または抗マウス Lamin B1 抗体 (#HS-404003) および DAB 基質による染色  
青色：Haematoxylin (核)

ラインナップ例

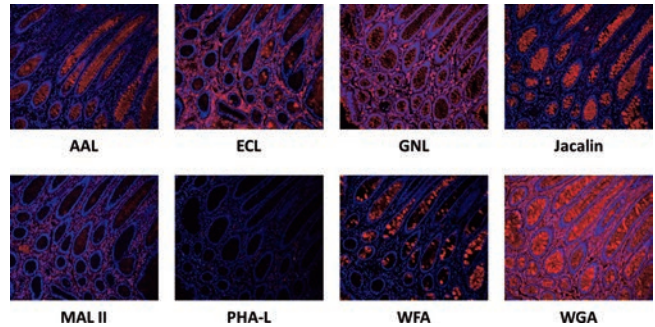
因子	交差性				クロナリティ	商品コード
	ヒト	マウス	ラット	ブタ		
CD4	×	○	×	—	Guinea Pig-Poly	HS-360004
	×	○	×	—	Rat-Mono	HS-360017
CD8a	×	○	—	—	Rat-Mono	HS-361017
	○	×	×	—	Rabbit-Poly	HS-398002
	○	×	—	×		HS-398003
×	○	×	—	HS-398103		
Lamin B1	×	○	—	—	Rabbit-Poly	HS-404003
	○	×	×	○		HS-404013
	○	×	×	○	Rat-Mono	HS-404017

品名	メーカー	商品コード	包装 / 価格 (¥)
<b>Anti-Lamin B1, Rabbit-Poly</b>			
SS2	HS-404003	交差性：マウス	200 µl / 75,000
SS2	HS-404013	交差性：ヒト, ブタ	200 µl / 75,000
<b>Anti-Lamin B1, Rat-Mono (12G6)</b>			
SS2	HS-404017	交差性：ヒト, ブタ	200 µl / 80,000

レクチンを用いた蛍光染色で  
組織切片上の糖鎖を  
スクリーニングするキット

8 種類のビオチン標識レクチンと蛍光標識ストレプトアビジン、ブロッキング試薬、および退色防止封入剤もセットになっています。

使用例



ホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE)  
ヒト大腸がん組織切片 (#GSK-2000)

8 種類のビオチン標識レクチンと DyLight 594 (赤色) 標識ストレプトアビジンを用いて、組織切片上の糖鎖を検出した。ECL, GNL, WFA, WGA についてはクエン酸溶液 (#H-3300) による抗原賦活化処理を実施した。また各組織切片の自家蛍光を抑制するため Vector TrueVIEW® Autofluorescence Quenching Kit (#SP-8400) を使用した。細胞の核を DAPI (青色) で染色した。

キットに含まれるレクチン

AAL ( <i>Aleuria aurantia</i> )	MAL II ( <i>Maackia amurensis</i> )
ECL, ECA ( <i>Erythrina crista-galli</i> )	PHA-L ( <i>Phaseolus vulgaris leucoagglutinin</i> )
GNL ( <i>Galanthus nivalis</i> )	WFA, WFL ( <i>Wisteria floribunda</i> )
Jacalin	WGA (Wheat Germ Agglutinin)

※すべてのレクチンはビオチン標識済みです。

品名	メーカー	商品コード	包装 / 価格 (¥)
<b>Glysite Scout Glycan Screening Kit</b>			
VEC	GSK-3000	DyLight 488 標識	1 kit / 163,000
VEC	GSK-2000	DyLight 594 標識	1 kit / 163,000
VEC	GSK-1000	DyLight 649 標識	1 kit / 163,000



糖鎖とがん

- 腫瘍細胞では糖鎖の量的な変化のみならず、しばしば正常細胞にはない糖鎖が見られます。代表的な変化としてはシアル化の増加、フコシル化、構造的切断、そして N-および O-結合型グリカン分岐といったものがあります。
- 細胞間接着分子である Selectin は腫瘍細胞の遊走、血管外への溢出といった転移のメカニズムに関連しています。糖鎖リガンドと Selectin の結合は、固形がんおよび血液がんのいずれにおいても転移の主要な促進要因です。
- シアル酸結合免疫グロブリン型レクチン (シグレック : Siglecs) などの細胞表面レクチンと糖鎖の結合は免疫細胞、特に NK 細胞による腫瘍細胞抗原の認識を妨害します。また免疫細胞を活性化させるタンパク質を抑制し、免疫抑制性サイトカインの発現を亢進します。